

平貞蔵著作目録

松田 義男 編
改訂 2019年 8月 30日
2017年 11月 29日

目次

略年譜

1. 著書(編著・共著・訳書・監修等含む)
2. 評論等(新聞・雑誌掲載)

凡例

- *「1. 著書(編著・共著・訳書・監修等含む)」、「2. 論文等(新聞・雑誌掲載)」に大別し、それぞれ年次順に配列した。最後に「3. 評論集初出一覧」を掲げた。
- *叢書名と巻書名がある場合、巻書名を表題として採用し、叢書名を< >に示した。
- *著書の内容目次を【 】に示した。また連載評論で副題が各回で異なる場合も副題を【 】に示した。
- *掲載雑誌の巻号数は、第1巻第1号→1-1と表記し、日刊新聞の号数は省略した。また、新聞の夕刊についてのみ[夕刊]と注記した。
- *目次中の表題と本文表題とが異なる場合、原則として後者を採用した。
- *新聞・雑誌の特集名・掲載欄を適宜[]で示したほか、無題の場合は[]に示して仮題とした。
- *連載は、初回掲載に一括した。
- *再録書は、初出の注記として[]に記した。
- *ペンネームの使用は< >に記した。
- *編者未確認の著作については、冒頭に*を付した。
- *その他、編者の注記を適宜[]に記した。

本著作目録作成に際しては、大阪市立大学学術情報センター、大阪府立中之島図書館・同中央図書館、岡山大学付属図書館、岡山県立図書館、沖縄県立図書館、京都大学付属図書館・同大学院経済学研究科・経済学部図書室、神戸市立中央図書館、神戸大学社会科学系図書館・同経営経済研究所、国立国会図書館、日本近代文学館、法政大学大原社会問題研究所、北海道立図書館、立教大学図書館より資料閲覧・複写の便宜を得ました。付記して謝意を表します。

略年譜

平貞蔵は、1894(明治 27)年、山形県東置賜郡伊佐沢村(現長井市伊佐沢)に生まれる。米沢興議館中学、第三高等学校を経て、1917年、東京帝国大学法学部政治学科に入学、新人会に参加し、1920年卒業。在学中の1919年末、上海に渡り、翌年4月まで北京、ハルピン、ウラジオストックを見聞し帰国。卒業後、農商務省囑託となり大学院に2年在学。1922年、社会思想社の結成に参加し『社会思想』を編集。1923年、法政大学経済学部講師、のち教授に就任(経済史担当)。1929年フランスに留学、1931年帰国。1933年、法政大学を退職。

1934年から翌年にかけて天津で生活、1936年から翌年にかけて大連で生活、その間、満鉄参事などをへて、1938年(昭和 13 年)、帰国、後藤隆之助を塾長とする昭和塾を創設(1941年解散)。1938年から1941年にかけて企画院専門委員をつとめ、1941年4月、東亜経済懇談会主査に就任する。

1945年8月16日、戦後日本経済の再建問題を検討する「戦後問題研究会」を発足(事務局に大来佐武郎、後藤誉之助、並木正吉)、大内兵衛、蠟山政道、東畑清一、中山伊知郎らとともに研究活動を開始、翌1946年3月、「日本経済再建の基本問題(外務省特別調査委員会報告)」を提言し解散。同年4月、私財を投じ新民政治学校を設立、三輪寿壮、勝間田清一、市川房枝らを講師に招き週三日の夜間講義により日本再建の礎石となるべき人材育成に専念する(～1946年10月)。1947年1月、山形県産業開発調査会委員、同年11月、山形県総合開発計画委員会(後に総合開発審議会に改組)の委員長に就任(1955年6月に辞任)。1949年東京電機大学の創設に参画、1952年、東京電機大学教授に就任。

1960年2月、総合開発審議会会長に就任。その後、1974年8月まで山形県企業振興委員会会長、米沢市建設振興審議会会長、東北開発審議会総合部会長、秋田営林局国有林野営協議会会長などをつとめる。また、1948年から1968年まで総理府資源調査会委員をつとめ(経済安定本部・科学技術庁)、1968年2月から1977年8月まで科学技術庁専門委員をつとめる。1978(昭和 53)年、死去。

上記は、平記念事業会編『平貞蔵の生涯』(平和祈念事業会、1980年)、平記念事業会編『東北開発の歴史と展望』(中央公論事業出版、1973年)、室賀定信『昭和塾』(日本経済新聞、1978年)、『回想の昭和塾』(昭和塾塾友会、1991年)、『山形県地域開発史』(山形県・山形県職員研修所、1993年)、水戸部浩子『平貞蔵と山形県』<『山形県地域開発史』別冊>(山形県地域開発史作成事務局、1993年)を参照した。

1. 著書

想出[「追想」]『村上堯遺稿』非売品、1920年[序の日付は1920年11月29日]

仏蘭西無産政党史－(労働党創立時代を中心として)－『各国無産政党史』社会思想社編<社会思想叢書 第7編>、同人社書店、1926年12月8日

ブラツセル民主同盟の会合に於ける演説『マルクス=エンゲルス全集 第12巻』改造社、1928年8月5日

フランス経済史『経済学全集 第29巻 各国経済史』改造社、1929年2月25日

移民政策『滿洲開発政策論－批判と主張－』参謀本部、1932年4月[印刷]

『商業史概論』巖松堂書店、1933年4月15日【緒論、1 古代の商業(1 東方諸国時代、2 古代社会総論、3 希臘と羅馬時代)、2 中世の商業(4 中世社会総論、5 中世前半の商業、6 中世後半の商業、7 中世末欧州各国の商業的發展)、3 近世前半の商業(8 近世社会総論、9 近世初頭の商業の特質、10 葡萄牙と西班牙、11 和蘭隆盛時代、12 英仏の登場と其の争覇、13 近世前半に於ける其他の諸国の活動)、4 近世後半の商業(14 新時代の展開、15 英国の商業的覇権の把握、16 仏蘭西の商業的發展、17 独逸の登場、18 米国の發展、19 其他の諸国の發展、20 帝国主義時代)】

『滿蒙移民問題』日本評論社、1933年3月1日【1 滿蒙移民の意義、2 移民地としての滿蒙(一)、3 移民地としての滿蒙(二)、4 移民の方法と態様、5 農業經營の方法】

北支經營の進行『アジア問題講座 第二卷－政治・軍事篇(二)－』創元社、1939年1月15日

『支那事變解決の諸問題と支那における商品流通』<産業講座資料 17>神戸市経済部産業課編・刊、1939年5月10日[3月24日講演]

対支政策の諸問題『アジア問題講座 第三卷－政治軍事篇(三)－』創元社、1939年8月8日

『人間について』トレー著(山村喬との共訳)上・下、<岩波文庫>岩波書店、1939年10月25日、1940年10月10日【Adolphe Quetelet, *Sur l'homme et le développement de ses facultés, ou essai de physique sociale*, 1835】

日支事變と支那の青年層『人の一人を惜しみ物の一つを惜しむ』川越少年刑務所、1940年3月20日

[9月11日演説速記(於軍人会館)]『新体制とは何か』<読売新聞社主催新体制大講演集>垂細亜出版社、1940年10月15日

『事變處理の理念』東洋書館、1940年12月1日【第1編新体制と外交 1.支那事變處理と日独伊樞軸、2. 欧州戦争と日本、3. 東亞共栄圏の諸問題、第2編支那事變處理の理論と実践 1 事變處理と新東亞への翹望、2 事變處理の現段階、3 我国大陸政策の推移、4 我国大陸政策と東亞新秩序、5 新秩序下の日支關係(1 政治的連携、2 經濟的連携)、6 支那に於ける租界と列強、7 事變處理と支那中央政權の課題、8 東亞新秩序の理念、9 我が對外政策と支那民族主義の把握、第3編大陸縦横談 1 滿州と支那、2 支那南北記】

東亞新建設と善隣友好『紀元二千六百年記念新東亞建設東京懇談会特別論文集』東京市役所、1940年11月7日

『共栄圏の北と南 論文と隨筆』三友社、1941年6月30日【北進と南進一序論に代へて一、北方への視角(1、大陸政策の基本的課題、2 滿州の政治と協和会、3 滿州に於ける新興運動、4 馬賊と匪賊)、中国への視角(1 支那に於ける民族運動、2 国府發展と憲政問題、3 六年前の北支、4 ヨーロッパ新秩序と東亞新秩序)、南方への視角(1 南進論と世界政局、2 南進の世界的意義－南進論と世界政局再論一、3 南方に於ける民族問題、4 台湾の印象)、付録(1.北条時宗時代、2.孫文及び支那青年知識階級)】

東亜新秩序『支那問題辞典』支那問題辞典編集部編、中央公論社、1942年3月20日[復刻：日本図書センター、2003年]

南方経営と北方経営との関係『南方建設の基本問題』南方経済懇談会編、内外書房、1942年5月15日

『民族主義—其の生成と発展—』[監訳]東洋書館、1942年5月15日

序『対中共施策に関する基礎資料』アジア経済調査所、1951年8月

日本の社会及国民性の特質『研修資料』3、防衛研修所、1954年

関口さんのこと『関口存男』荒木茂男・真鍋良一・藤田栄編、三修社、1959年7月25日[愛蔵版：『関口存男の生涯と業績』(三修社、1967年)]

『東南アジアの資源構造』<アジア経済研究シリーズ 第15集>アジア経済研究所、1962年3月31日【1 東南アジアの重要鉱産資源、2 鉄鉱石の賦存と開発、3 石炭とマンガン鉱の賦存と開発、4 石油の賦存と開発、5 ポーキサイトその他の賦存と開発、6 東南アジアの経済開発計画と鉱業開発、7 日本の東南アジア資源にたいする要請、8 日本の東南アジア開発の可能性】

その生立ちと環境『三輪寿壯の生涯』三輪寿壯伝記刊行会、1966年2月14日

東大時代の三輪『三輪寿壯の生涯』三輪寿壯伝記刊行会、1966年2月14日

社会思想社結成の頃『三輪寿壯の生涯』三輪寿壯伝記刊行会、1966年2月14日

弁護士としての三輪寿壯『三輪寿壯の生涯』三輪寿壯伝記刊行会、1966年2月14日[座談会:司会]

師と交友ののなかから—一つの補い—『三輪寿壯の生涯』三輪寿壯伝記刊行会、1966年2月14日

社会思想社のころ『回想笠信太郎』笠信太郎追悼集刊行会、1968年11月3日[再刊：朝日新聞社、1969年7月25日]

感謝のこぼれ『東北開発の歴史と展望』平記念事業会編、中央公論事業出版、1973年3月1日

東北開発の展望と問題点『東北開発の歴史と展望』平記念事業会編、中央公論事業出版、1973年3月1日[1969年8月23日於山形県赤湯温泉座談会：平井寛一郎、安孫子藤吉、大来佐武郎、栗原東洋]

国土開発計画と戦後の展開『東北開発の歴史と展望』平記念事業会編、中央公論事業出版、1973年3月1日[1968年11月座談会(於国土計画協会)：山越道三、栗原東洋]

国土総合開発法と東北開発の展開『東北開発の歴史と展望』平記念事業会編、中央公論事業出版、1973年3月1日[座談会：財前直方、喜多村治雄、斗蔵惣、阿多忠明、船越昇、柳町尚毅、栗原東洋]

米沢と総合開発『東北開発の歴史と展望』平記念事業会編、中央公論事業出版、1973年3月1日[1968年6月座談会(於米沢市白布高湯温泉)：鈴木徳松、吉野庄八、村山忠穂、栗原東洋]

答申のこぼれ『東北開発の歴史と展望』平記念事業会編、中央公論事業出版、1973年3月1日[1949年12月27日山形県総合開発計画委員会答申]

平貞蔵の生涯[口述筆記]『平貞蔵の生涯』平記念事業会編、1980年5月28日

2. 評論等(新聞・雑誌掲載<802 篇>

1919(大正 8)年

- 〔「台町私語」〕『デモクラシイ』1-2、4月1日<一路^{はるか}除>
〔「村人語」〕『デモクラシイ』1-3、5月1日<一路除>
〔「村人語」〕『デモクラシイ』1-4、6月1日<一路>
〔「村人語」〕『デモクラシイ』1-5、7月1日<一路除>
奴隷解放の巨人リンコルン〔「評伝」〕『デモクラシイ』1-6、9月1日
同盟罷業の感想『デモクラシイ』1-6、9月15日<中野吾一>
〔「村人語」〕『デモクラシイ』1-6、9月15日<除>
編輯便り『デモクラシイ』1-6、9月15日<無署名>
有識者の従属的地位『デモクラシイ』1-8、12月1日

1920(大正 9)年

- 〔北京からの通信の一節「心と心の叫びと囁き」〕『先駆』3月号、3月1日
〔北京からの通信「東西南北」〕『先駆』4月号、4月1日
上海で聞いた話『先駆』8月号、8月1日

1921(大正 10)年

- 米沢山形講演旅行『同胞』5月号、5月1日<無署名>
産業革命に就て『ナロオド』1、2、4、7月1日、8月1日、10月1日<連載1、2回のみ平生>

1922(大正 11)年

- お断り『社会思想』1-1、4月1日<無署名>
編輯言『社会思想』1-2、5月1日<無署名>
月島から『社会思想』1-3、6月1日<無署名>
月島から『社会思想』1-4、7月1日<無署名>
月島から『社会思想』1-6、9月1日<平>
赤色労働組合インターナショナルの組織〔「研究資料」〕『社会思想』1-6、9月1日
月島から『社会思想』1-7、1922.10月1日<除>
英国労働党と共産党の関係〔「資料」〕『社会思想』1-7、10月1日
煤煙下話『社会思想』1-8、11月1日<無署名>

反プチブルジョア論（マルクス書翰）[共訳]『社会思想』1-8、11月1日<<T・T>>

総連合創立大会に就て『社会思想』1-8、11月1日<<T>>

月島から『社会思想』1-9、12月1日<<賒>>

1923(大正 12)年

月島便り『社会思想』2-1、1月1日<<賒>>

英国労働党側の共産党加入問題観[「資料」]『社会思想』2-1、1月1日

英国労働党党則[「資料」]『社会思想』2-2、2月1日

英国共産党、労働党と共同戦線 労働党に対する共産党の態度を定むる一文書[資料]『社会思想』2-3、3月1日

編輯室から『社会思想』2-4、4月1日<<平>>

英国独立労働党と共産主義[「資料」]『社会思想』2-5、5月1日

海内労働運動消息『社会思想』2-7、7月1日<<T・T生>>

海内労働運動消息 関東『社会思想』2-8、9月1日<<平>>

不遇な社会主義『社会思想』2-9、11月1日

1924(大正 13)年

労働組合と政党問題[「時観」]『社会思想』3-1、1月1日

海内労働運動消息『社会思想』3-1、1月1日<<T・T>>

労働教育概況『社会思想』3-6、8月1日<<T・T生>>

政治研究会の成立『社会思想』3-6、8月1日<<T>>

海内労働運動消息『社会思想』3-6、8月1日<<T>>

イワン・サカエウイツチ・オワスギー[「当面の人」]『社会思想』3-7、9月1日<<T>>

編輯室から『社会思想』3-7、9月1日<<T>>

中央労働学院[「労働教育」]『社会思想』3-8、10月1日<<無署名>>

本芝労働組合／明治電友会／日本労技会[「海内労働運動消息 関東」]『社会思想』3-8、10月1日<<T生>>

仏蘭西『社会思想』3-9、11月1日

大正十三年を送る[「時観」]『社会思想』3-10、12月1日

日本資本主義経済の研究 高橋亀吉氏著『[「新刊紹介」]』『社会思想』3-10、12月1日<<平>>

1925(大正 14)年

知識と信義と『社会思想』4-1、1月1日<<T・T>>

帝国主義の経済的基礎 バヴロウキツチ著上田茂樹訳[「新刊紹介」]『社会思想』4-1、1月1日<<平>>

関東[「海内解放運動消息」]『社会思想』4-1、1月1日<<平>>
編輯室から『社会思想』4-1、1月1日<<平>>
労働総同盟関東同盟の内紛[「資料」]『社会思想』4-2、2月1日
孫文と語る[「当面の人」]『社会思想』4-3、3月1日<<平>>
労働教育消息『社会思想』4-3、3月1日<<T>>
現代社会生活の不安と疑問 堺利彦氏著／労農露西亜の労働 山川均氏著／パンフレット数種[「新刊紹介」]
『社会思想』4-3、3月1日<<平>>
仏蘭西労働党創立前後と其の綱領『社会思想』4-4、4月1日
労働教育消息『社会思想』4-5、5月1日<<T>>
労働争議／農民組合／労働運動其他[「海内解放運動消息 関東」]『社会思想』4-5、5月1日<<T>>
彼の当惑『社会思想』4-6、6月1日<<T>>
政界の近状を見る[「時観」]『社会思想』4-6、6月1日<<平>>
シカゴのレーニン学校『社会思想』4-6、6月1日<<T>>
各国労働教育概況[「資料」]『社会思想』4-6、7、6月1日、7月1日<<T[第1回のみ]>>
労働学校関係者諸氏にお願い『社会思想』4-6、6月1日<<無署名>>
編輯言『社会思想』4-6、6月1日<<餘>>
東京鉄工組合大会其他[「資料」]『社会思想』4-8、8月1日<<平>>
海内解放運動消息 関東方面『社会思想』4-8、8月1日<<T・T生>>
労働総同盟臨時大会傍聴記『社会思想』4-11、11月1日<<T>>
政治研究会臨時大会傍聴期『社会思想』4-11、11月1日<<T>>
大正十四年の労働運動[「解放運動大観」]『解放』4-3、12月1日

1926(大正 15・昭和元)年

年頭言『社会思想』5-1、1月1日<<T・T>>
無産政党再組織の問題[「時観」]『社会思想』5-2、2月1日<<平>>
独立労働協会に就て[「時観」]『社会思想』5-3、3月1日<<平>>
本邦労働運動の数的一考察『社会思想』5-4、4月1日<<友岡久雄との共同執筆>>
各国労働教育概況『社会思想』5-4、4月1日<<平>>
新農民組合の設立[「時観」]『社会思想』5-5、5月1日<<平>>
海外解放運動消息『社会思想』5-5、5月1日<<T・T生>>
労働教育『社会思想』5-5、5月1日<<無署名>>
商売の経験『経済往来』1-5、7月1日
一つの反省と展望『社会思想』5-7、7月1日<<平>>

海内解放運動消息『社会思想』5-7、7月1日<<T・T生>>
実行と批評『社会思想』5-8、8月1日<<平>>
編輯言『社会思想』5-8、8月1日<<T>>
父を失ふ『経済往来』1-7、9月1日
東京市電自治会の分裂[「時観」]『社会思想』5-10、10月1日
各派各流の対立『社会思想』5-11、11月1日<<除>>
本年の労働運動から『解放』5-12、12月1日
労働農民党の前途如何[「時観」]『社会思想』5-12、12月1日<<平>>

1927(昭和2)年

多望なる一九二七年『社会思想』6-1、1月1日<<T>>
労農総連合と日本労働党[「時観」]『社会思想』6-1、1月1日
編輯言『社会思想』6-1、1月1日<<T>>
大山郁夫氏の日労党評を評す『社会思想』6-2、2月1日
分裂直後の仏蘭西両C・G・T『社会思想』6-8、8月1日
編輯言『社会思想』6-10、10月1日<<T>>
仏蘭西経済史研究の近状『法政大学論集』3-2、12月28日

1928(昭和3)年

仏蘭西に於ける統一戦線問題[「世界社会運動の現勢」]『改造』10-1、1月1日
仏蘭西政界の分野『社会思想』7-4、4月1日
仏蘭西政界の近況と無産政党『社会思想』7-6、6月1日
仏蘭西総選挙の結果『社会思想』7-7、7月1日
分裂後の仏蘭西社会党『社会思想』7-10、10月1日

1931(昭和6)年

最近のフランスと無産階級運動『批判』2-5、5月1日[座談会：長谷川萬次郎、莊原達、福岡誠一、佐々木修一郎、後藤信夫(松方三郎)]
革命西班牙の経済情報『帝国大学新聞』387、388、6月1、8日
仏蘭西の海外投資に就て『月刊世界経済』1、6月15日
労働全収益／共同耕作／失業保険[付録「現代大衆読本」]『中央公論』46-7、7月1日
フーヴァー案と仏蘭西『月刊世界経済』2、7月15日
現代仏蘭西論『中央公論』46-8、8月1日

政治経済より観たる仏国[7月16日於法政大学講堂]『講演集』261、8月10日

フランス[「外国雑誌の紹介」]『帝国大学新聞』404、10月28日

論壇時評 労働党政府の壊滅を中心として『中央公論』46-11、11月1日

仏国植民地の開発と恐慌『月刊世界経済』5、11月15日

ブリアン『改造』13-12、12月1日

恐慌下の仏蘭西『月刊世界経済』6、12月15日

1932(昭和7)年

仏蘭西に於ける失業問題『世界経済』7、1月15日

賠償問題と仏蘭西の政治事情『世界経済』8、2月15日

日支問題と仏蘭西(付、最近の政変事情)『世界経済』10、4月15日

地中海をめぐる仏伊の対立[「世界の燃焦点」]『文芸春秋』10-5、5月1日

大統領暗殺と仏国の政界『中央公論』47-6、6月1日

仏蘭西政界現状—総選挙後の政団を中心として—『外交時報』664、8月1日

仏蘭西新議会とローザンヌ会議『世界経済』14、8月15日

欧羅巴の憲兵隊『中央公論』47-9、9月1日

ゴール以前の経済生活『経済志林』6-2、9月20日

人間及びその諸能力の発達に就いて[山村喬との共訳]『経済志林』6-2、9月20日

国際政局とフランス[談、「論叢」]『国本』12-11、11月1日

匪賊論 満蒙と台湾『セルパン』21、11月1日

1933(昭和8)年

仏蘭西経済界の回顧と展望『月刊世界経済』2-1、1月1日

仏蘭西新内閣を中心として『外交時報』675、1月15日

戦債問題と仏蘭西[「戦債問題をめぐりて」]『月刊世界経済』2-2、2月1日

財政難の仏蘭西『外交時報』677、2月15日

国際政局の現状『月刊世界経済』2-4、4月20日

仏蘭西プロソク論『世界政治経済月報』1-1、4月20日

四国協約問題『月刊世界経済』2-5、5月10日

満州馬賊と匪賊『東亜』<東亜経済調査局>6-7、7月1日[「馬賊と匪賊」と改題『共栄圏の北と南』収録]

欧州の政治的新均衡『政治経済研究』1-1、7月7日

埃甸合併の経済的側面—経済時評—『文芸春秋』11-8、8月1日

日仏提携論『東亞』6-9、11、9月1日、11月1日

1934(昭和9)年

仏蘭西ブロックの世界的勢力『改造』16-2、2月1日

満蒙移民論『外交時報』701、2月15日

仏蘭西の金本位 パブソンの離脱説を駁す『帝国大学新聞』515、2月26日

金本位維持を廻る仏国政界財界の動き『エコノミスト』12-5、3月1日

フランス騒擾事件の新動向『中央公論』49-3、3月1日

1935(昭和10)年

紛争の渦中より[「北支事変の真相」]『中央公論』50-7、7月1日<<中野梧一>>[「六年前の北支」と改題『共栄圏の北と南』収録]

北支経略の特質『協和』154、9月15日<<中野梧一>>

支那南北記『改造』17-11、11月1日<<中野梧一>>[『事変処理の理念』収録]

北支経略雑感『改造』17-12、12月1日<<中野梧一>>

1936(昭和11)年

北支自治と学生運動『改造』18-2、2月1日

1937(昭和12)年

南京政権と抗日外交『中央公論』52-2、2月1日

1938(昭和13)年

長期戦を戦ひ抜け!『大陸』1-3、8月1日[座談会:中野正剛、杉森孝次郎、古野伊之助、広瀬久忠、山之内二郎、尾崎秀実]

対支中央機関に就て『早稲田大学新聞』118、10月12日

対支中央機関の設置『セルバン』94、11月1日

昭和壟断想 塾と大学制度の問題[「文芸 新興文化団体にきく」]『読売新聞[夕刊]』12月15日

1939(昭和14)年

新秩序下の日支関係[「新体制下の東亞」]『改造』21-1、1月1日[「新秩序下の日支関係 一、政治的連携と」改題『事変処理の理念』収録]

対支政策と国民再編成『大陸』2-3、3月1日

満州と支那『知性』2-3、3月1日[「満州と支那」と改題『事変処理の理念』収録]

事態整理と指導原理—「対支文化工作の指導原理」以前—『帝国大学新聞』757、3月13日

支那に於ける租界と列強の活動『改造』21-4、4月1日[「支那に於ける租界と列強」と改題『事変処理の理念』収録]

第二次世界大戦と極東『中央公論』54-5、5月1日[7月5日(於驪山荘)座談会：細川嘉六、堀江邑一、城戸又一、丸山政男、尾崎秀実]

支那青年知識階級論『ラヂオ講演講座』72、5月15日[「孫文及び支那青年知識階級」(七)~(一〇)(『共栄圏の北と南』)収録]

対支文化工作偶話[「水曜時評」]『早稲田大学新聞』140、5月31日

事変処理と新東亜への翹望『改造』21-7、7月1日[『事変処理の理念』収録]

欧州危局の進展と興亜日本の基調『中央公論』54-7、7月1日

欧州動乱と支那事変『大陸』2-10、10月1日

欧州動乱と日本『中央公論』54-10、10月1日

新支那への待望『東亜問題』1-7、10月1日

事変処理と欧州大戦『中央公論』54-11、10月10日[座談会：笠信太郎、和田耕作、牛場信彦、西園寺公一、聽濤克己、角田順、後藤勇]

列強抗争の限界と支那事変[「輿論結論」]『公論』2-9、11月1日

日本の再出発—世界動乱と対外政策・事変処理—『日本評論』14-11、11月1日

嵐の中に立つ日本『大陸』2-11、11月1日[鼎談：小沢正元、小島精一]

汪政権とその対外政策『国民新聞』11月8、9日[『新東亜の展望』(国民新聞社、1940年3月25日)収録]

新支那と諸勢力 支那は統一するか幾つかに分れるか[「世界の動向」]『帝国大学新聞』786、11月13日

事変処理座談会—東亜の現在と将来—『東亜連盟』1-2、12月1日[10月21日座談会(於日比谷山水楼)：伊藤六十次郎、細川嘉六、加田哲二、尾崎秀実、東浦庄治、稲村隆一、神田孝一、木村武雄]

新中央政権の課題『文芸春秋』17-23、12月1日

1940(昭和15)年

皇紀二千六百年と日本の国際的位置『協和』256、1月1日

新秩序をめぐる諸問題『揚子江』3-1、1月1日

事変処理私論『政界往来』11-1、1月1日

支那新中央政権と列強の対日動向 吾今後の態度に繋る『帝国大学新聞』794、1月15日

英首相に送る手紙[「世界の立役者への公開状」]『国民新聞[夕刊]』1月19日[『新東亜の展望』(国民新聞社、1940年3月25日)収録]

現下不安解消の為に『改造』22-3<時局増刊3>、1月31日[1月22日座談会：有馬頼寧、金原賢之助、島田晋作、千石興太郎、大口喜六、渋谷秀雄、星野直樹]

次善内閣への期待[「米内内閣と輿論」]『改造』22-2、2月1日

事変処理と支那新中央政權『公論』3-2、2月1日[「事変処理と支那中央政權の課題」と改題『事変処理の理念』収録]

新内閣への要望『公論』3-2、2月1日[座談会：内田繁隆、河野密、原祐三、上村哲弥]

対外政策・支那民族主義把握・国内革新『大陸』3-2、2月1日[「我が対外政策と支那民族主義の把握」と改題『事変処理の理念』収録]

支那に於ける民族主義運動『東亜解放』2-2、2月1日[「支那に於ける民族運動」と改題『共栄圏の北と南』収録]

新支那の諸勢力と其統一問題『農業と機械』200、2月1日

大陸政策と東亜新秩序抄論『理想』105、2月1日[「我国大陸政策と東亜新秩序」と改題『事変処理の理念』収録]

新東亜と外交の基調『国民新聞』2月22～25日

列強の対日動向を糺す[「新政権を繞る東亜の動向」]『外地評論』3-3、3月1日

支那新政権と列國の対日動向『公民講座』184、3月1日

第七十五議會の特性『中央公論』55-3、3月1日

事変処理を示唆する新刊[嶺山政道『東亜新秩序と日本外交政策』、木村禧八郎『インフレーション』の書評]『読売新聞』3月21日

蒋介石の布告を中心として『改造』22-6、4月1日

多くのものが欠けてゐる『科学主義工業』4-4、4月1日

新しき時代を担ふものへ 第七十五議會を解剖して『協和』262、4月1日

國民の政治力と新政治機構の研究『公論』3-4、4月1日[座談会：穂積七郎、勝間田清一、河野密、矢部貞治、尾崎秀実]

大陸政策の基本課題小論『東亜問題』2-1、4月1日[「大陸政策の基本的課題」と改題『共栄圏の北と南』収録]

「新支那建設の具体策」座談会『文芸春秋』18-6、4月1日[座談会：大西齊、土井章、横田喜三郎]

我国大陸政策の推移—大陸政策の前進と後退についての一つの覚え書き—『公論』3-5、5月1日[「事変処理の理念』収録]

*新東亜外交の基調に就いて『時局月報』[13-4、1940年5月1日]

日支提携の根本方策『大陸』3-5、5月1日[座談会：山崎靖純、橘樸、石浜知行]

日支經濟提携について『日本評論』15-5、5月1日[「新秩序下の日支關係 2 經濟的連携」と改題『事変処理の理念』収録]

『派遣軍將兵に告ぐ』を読む『改造』22-10、6月1日

世界史的に見た東亜問題『大陸新報』6月4日[座談会：三木清、細川嘉六、尾崎秀実、友岡久雄]

事変処理の視角から[「介入・不介入の限界」]『中央公論』55-7、7月1日

前進体制を確立せよ[「太平門」]『東亜解放』2-7、7月1日

支那をかく観る[文責在記者]『家庭週報』1478、7月19日

新体制に関連して『改造』22-14、8月1日

戦局進展下の重慶抗戦力『大陸』3-8、8月1日[座談会：具島兼三郎、岸川忠嘉、宮城俊次、中西功、熊谷康、加藤清、岩淵辰雄、石浜知行]

ヨーロッパ協同体と東亜協同体—東亜協同体への一つの反省—『日本評論』15-8、8月1日[大幅に修正し「ヨーロッパ新秩序と東亜新秩序」と改題『共栄圏の北と南』収録]

計画的大陸進出へ『東京朝日新聞』8月8日

新体制座談会 覆面「狙撃兵」から「推進隊」へ『都新聞』8月22～28、30日[8月21日座談会(於帝国ホテル)：岩淵辰雄、原祐三、新居格、本荘可宗、上司小剣、尾崎秀実、津久井龍雄、矢部周、河野密、小穴毅、清瀬一郎]

重点の置きどころ[「推進隊」]『都新聞[夕刊]』8月31日

民族政策と南方問題『新亜細亞』2-9、9月1日[『南方民族運動』<新亜細亞叢書3>(大和書店、1943年)、「南方に於ける民族問題」と改題『共栄圏の北と南』収録]

盛夏閑談『大陸』3-9、9月1日[座談会：橘樸、細川嘉六、土居明夫、松本重治、岩淵辰雄]

新体制と外交—事変処理と日独伊枢軸—[「新体制・近衛内閣の責務」]『中央公論』55-9、9月1日[「事変処理と日独伊枢軸」と改題『事変処理の理念』収録]

「近衛内閣と新国民組織の構想」座談会『文芸春秋』18-12、9月1日[座談会：城戸播太郎、関口泰、林広吉、本位田祥男、三輪寿壮、大渡順二]

新体制と言論『改造』22-17<時局版10>、9月2日

緊要な地方指導[「推進隊」]『都新聞[夕刊]』9月14日

東亜共栄圏の諸問題[「論説及時評」]『エコノミスト』18-34、9月16日[『事変処理の理念』収録]

新政治体制の必然性—支那事変解決の根本要諦茲にあり—『講演時報』597、9月25日

国民組織案の討議『改造』22-18、10月1日[9月7日座談会：河野密、内田繁隆、高橋亀吉、赤松克麿、木原通雄、林広吉、島田日出夫]

事変処理の現段階『大陸』3-10、10月1日[『事変処理の理念』収録]

時局と青年『日本評論』15-10、10月1日

反動をいましむ[「推進隊」]『都新聞[夕刊]』10月12日

新体制と漢民族の問題—再び事変処理の方向に就て—[「新体制と東洋復興」]『時局月報』15-9、10月15日

協和会全連大会傍聴記『改造』22-20、11月1日

北海道と満州[「推進隊」]『都新聞[夕刊]』11月9日

新体制と外交—事変処理と日独伊枢軸—『国際経済研究』1-10、11月11日

「満州国の当面する重要問題」座談会『現地報告』38、11月10日[座談会：稲葉秀三、小泉吉雄、塩見友之助、津久井龍雄]

ソ連を見失ふな『一橋新聞』317、11月10日

「フランス敗れたり」を読む[「推進隊」]『都新聞[夕刊]』11月23日

石浜知行著支那戦時経済論[「読書特集」]『早稲田大学新聞』195、11月27日

満州国・協和会・全連を語る『公論』3-12、12月1日[10月23日座談会：尾崎秀実、富沢有為男、古市春彦]

歴史と今と[「推進隊」]『都新聞[夕刊]』12月7日

「日華条約の次に来るもの」座談会『現地報告』40、12月15日[座談会：秋山邦雄、伊藤好道、木村禧八郎、田中惣五郎]

歳末偶話[「推進隊」]『都新聞[夕刊]』12月31日

1941(昭和16)年

日華基本条約の締結をめぐりて『公論』4-1、1月1日

満州に於ける新興運動『大陸』4-1、1月1日[『共栄圏の北と南』収録]

「日本の政治革新の検討」座談会『文芸春秋』19-1、1月1日[座談会：奥村紀喜和男、加田哲二、河野密、津久井龍雄]

台湾から[「推進隊」]『都新聞[夕刊]』1月11日

何が必要[「推進隊」]『都新聞[夕刊]』1月23日

日米関係と事変『改造』23-4<時局版15>、2月2日

興亜団体統合の問題[「文化評論」]『帝国大学新聞』842、2月3日

人物出でよ[「推進隊」]『都新聞[夕刊]』2月8日

望洋のなげき[「時観」]『福岡日日新聞[夕刊]』2月27日

台湾所見『大陸』4-3、3月1日[「台湾の印象」と改題『共栄圏の北と南』収録]

我が南進論と世界政治の現勢『中央公論』56-3、3月1日[「南進論と世界政局」と改題『共栄圏の北と南』収録]

現勢への理解に 政治部門の良書[「書評」]『朝日新聞』3月23日

北条時宗時代『改造』23-7、4月1日[『共栄圏の北と南』収録]

南進の世界的意義—南進と世界政局再論—『中央公論』56-4、4月1日[『共栄圏の北と南』収録]

大政翼賛会の改組を繞つて[「近衛内閣の政治力」]『大陸』4-5、5月1日

見透しを要す[「曳光弾」]『東京朝日新聞』5月6日

事変処理を繞る政治の動向『改造』23-11、6月1日

内田繁隆著「新政治体制の原理」について[「書評」]『大陸』4-6、6月1日

世界政局と事変処理[「日本の新課題」]『中央公論』56-6、6月1日

南方圏の現実『改造』23-12<時局版19>、6月1日[鼎談：板垣与一、山田文雄]

[[「回顧と展望」]『大陸』4-7、7月1日

世界戦争の新段階と日本『改造』23-14<時局版20>、7月2日

事変満四年[「文化評論」]『帝国大学新聞』865、7月7日

革新を促がす「時」と革新を阻む「時」『改造』23-15、8月1日

岐路に立つ日本『大陸』4-8、8月1日[座談会：岩淵辰雄、細川嘉六、山浦貫一、益田直彦]

南進政策私見『台湾時報』260、8月1日

ヨーロッパ情勢と我等『中央公論』56-8、8月1日

新情勢と南方問題『日本評論』16-8、8月1日

転換期とは何ぞや『現地報告』47、8月10日

独ソ戦の帰趨と世界の動向『現地報告』47、8月10日[座談会：大鷹正次郎、金内良輔、茂森唯士、富士辰馬、前原光雄]

仏印増派と日本の地位『大陸』4-9、9月1日

世界動乱と日本[「緊急時の行動」]『日本評論』16-9、9月1日

世界再編成と日本『改造』23-19、10月1日

支那事変の世界史的性格『公民講座』203、10月1日

世界動乱に処する覚悟『大陸』4-10、10月1日

イランに眠る成瀬俊介君『文芸春秋』19-10、10月1日[「友人の思い出ーイランに眠る成瀬俊介君」と改題『蒼林』5-3、1954年3月7日再録]

独ソ戦の進展と日米関係[「独米危機と日米交渉」]『改造』23-20<時局版23>、10月2日

大陸政策十年の検討[「創刊拾周年記念特輯」]『満州評論』21-17、10月25日[10月14日座談会：鈴木小兵衛、橘樸、尾崎秀実、土井章、細川嘉六]

既定軌道の方向を是正ー東条内閣に期待するものー『帝国大学新聞』875、10月27日

戦争発展の齎すもの『改造』23-22<時局版24>、11月1日

政治の現段階私見『国民美術』1-2、11月1日

南方への視角[「研究指標」]『大陸』4-11、11月1日

世界再編成と枢軸強化ー特に青年に寄すー『中央公論』56-11、11月1日

資源論[「豪亜地中海」]『読売新聞』11月23、24日

西北回想『改造』23-23、12月1日

興亜運動の目標『青少年指導』7-9、12月1日

アジア大陸の当面するもの[「東亜展望 政治」]『大陸』4-12、12月1日

「決戦体制下・国民に檄す」座談会『文芸春秋』19-12、12月1日[座談会：今西太郎、来間恭、齊藤直幹、田村太郎、宮崎龍介]

1942(昭和17)年

アジア民族の解放『改造』24-1、1月1日[対談：橘樸]

南方問題の発展と反省『新亜細亜』<南満州鉄道東亜経済調査局>4-1、1月1日[『南方民族運動』<新亜細亜叢書3>(大和書店、1943年)収録]

歴史と現在立つてゐる時代『婦人公論』27-1、1月1日

時代への決意『文芸』10-1、1月1日
東亜の前進のために―汪精衛先生に寄す―『東亜解放』4-1、1月10日
アメリカ私観[「時観」]『合同新報[夕刊]』1月14日
南方発展と北方問題『文芸』1-2、2月1日
中国の青年に与ふ『中央公論』57-2、2月1日
南方問題の所在『日本評論』17-2、2月1日
世界の転換、時代の変化を見よ『婦人公論』27-2、2月1日
悠久の感激[「時観」]『合同新聞[夕刊]』2月11日
武將今昔『改造』24-3、3月1日[鼎談：渡辺世祐、吉川英治]
大東亜共栄圏形成期の台湾[「特輯・台湾に期待する」]『台湾時報』267、3月10日
東亜共栄圏における労働力配置と人口問題『帝国大学新聞』893、3月16日
大東亜共栄圏と満州国『満州経済』3-4、4月1日
大東亜労働政策論―主として共栄圏域の労働力配置と人口問題について―『外地評論』5-4、4月7日
大東亜共栄圏と世界『太平洋』5-4、4月7日
時局立言[「時観」]『合同新聞[夕刊]』4月11日
地方都市の底流『改造』24-5、5月1日
政治の保守性[「随想」]『工業組合』4-5、5月1日
東北の郷里から『知性』5-5、5月1日
日本経済の変遷と大東亜広域経済『東洋貿易研究』21-13、5月1日
南方論序説『国際経済研究』3-5、5月8日
選挙終了の後に[「時観」]『合同新聞[夕刊]』5月8日
総合的研究の完成へ[「最近の支那関係書 政治」]『日本読書新聞』200、5月18日
日本民族政策の確立『改造』24-7、7月1日
事変記念日に寄せて 支那の動的把握『朝日新聞』7月7～9日
私観支那『都新聞』7月16、17日【(上)日本との新しい結合、(下)様々な認識の揚棄】
時局随感[「時観」]『合同新聞[夕刊]』7月24日
大東亜戦下の青年に寄す『関西学院新聞』188、8月20日
英帝国の崩壊と印度の独立『改造』24-9、9月1日
東亜資源の再建へ『東方公論』17-9、9月1日
日満関係と大東亜新秩序『合同新聞[夕刊]』9月10～12日
時事随感[「無門閑」]『西日本新聞[夕刊]』9月13日
時事随感[「時観」]『合同新聞[夕刊]』9月18日

東亜推進力としての日満一体『満州評論』23-13、9月26日

大東亜省と大東亜建設『南洋経済研究』5-10、10月1日

明日の支那『日本評論』17-10、10月1日

日本の大東亜統治は朝鮮で試験済み 平貞蔵氏の懇談会[談]『秋田魁新報』12月6日

1943(昭和18)年

朝鮮雑記『日本評論』18-2、2月1日

各国の計画経済化を促進 日独伊三国経済協定締結の意義『帝国大学新聞』934、2月15日

総合雑誌三月号 問題解明の方途[「雑誌時評」]『日本読書新聞』240、3月13日

ドイツの将来—一つの世界動向論—『ドイツ』4-7、4月1日

独仏関係の示唆[「時局新想」]『京都新聞[夕刊]』5月14日

時局に思ふところ[「時観」]『合同新聞[夕刊]』5月16日

大東亜建設と支那『公民講座』223、224、6月1日、7月1日

現在の新情勢と満州[「論評」]『満州経済』4-6、6月1日

官民俱に深省[「時局新想」]『京都新聞[夕刊]』6月13日[版によっては15日]

戦力増強と日本国民『大東亜資源』2-23、6月13日

前路を見よ[「時局新想」]『京都新聞[夕刊]』7月1日[版によっては2日]

前路を見よ[「時観」]『合同新聞[夕刊]』7月1日

東亜の先覚 宮島先生『朝日新聞』7月15日[河相達夫の署名で執筆。『平貞蔵の生涯』292頁、参照]

朝鮮に関して思ふ[「時局新想」]『京都新聞[夕刊]』7月29日

勝たねばならぬ[「時局新想」]『京都新聞[夕刊]』8月6日

勝たねばならぬ[「時観」]8月7日

前進を忘るな[「時局新想」]『京都新聞[夕刊]』8月26日

転換期[「時局新想」]『京都新聞[夕刊]』8月31日

満州雑感—日満経済懇談会に出席して—『満州経済』4-10、10月1日

1944(昭和19)年

二つの新刊書[「書評」]『朝日新聞』1月16日

共栄圏建設と防衛上の問題『満州公論』3-2、2月1日

日華関係の将来『揚子江』7-5、5月7日

大東亜建設の将来—汪主席の訃報を聞きつゝ—『放送』4-12、12月1日

具体化の前提について[「大東亜宣言具体化への提言」]『東洋経済新報』2153、12月16日

1945(昭和 20)年

中国はどうか『揚子江』8-1、1月7日

重慶自主性の行方[「岐路に立つ重慶政権とその問題」]『東洋経済新報』2162、3月10日

刑死するまで念ず“日本民族の幸福”平氏、尾崎秀実氏を語る[談]『朝日新聞』11月5日

回顧と展望『東京新聞』12月30、31日【(上)浅い現実の認識、(下)新理念への闘争】

1946(昭和 21)年

思ひ切り民間人を お座りな新旧妥協は禁物[「新しい指導者をどう選ぶ」談]『朝日新聞』1月6日

デモクラシイ 膝栗毛一雪の農村を探る『ニュース』1、2、1月20日、2月20日

世界情勢と民主主義—新民主主義論—『改造』27-2、2月1日

民主主義とはどういふことか『少国民の友』22-11、2月1日

賠償問題への関心[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』80、2月12日

野坂参三氏の見解[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』83、85、92、93、2月15、18、26、27日

[「近頃の旅行で困った話・嬉しかった話・腹の立つた話」]『交通クラブ』1-1、3月1日

総選挙と青年『青年』31-3、3月1日

民主戦線の結成は？[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』96、3月2日

反共連盟成立するか[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』97、101、3月4、8日

国際的生活への参加と民主主義『新時代』13-3、3月7日

野坂君を迎へ民主陣営に望む『民主文化』1-3、3月10日

朴烈氏の新朝鮮建設同盟[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』104、3月12日

国民の政治的教養のために[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』107、3月15日

生産と政治[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』109、3月18日

民主人民戦線[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』112、3月22日

新憲法草案と各政党[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』117、119、3月28、30日

民主主義化の諸問題[「天皇と民主主義」]『真日本』1、4月1日

日本経済は自立し得るや『潮流』1-4、4月1日[座談会：土屋清、有沢広巳、東畑精一、大来佐武郎、脇村義太郎]

総選挙を前にして[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』121、4月2日

*新憲法草案と新聞[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』4月15日

婦人議員の問題[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』134、135、4月19、20日

社会党の立場[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』136、4月22日

新党、与党工作と各紙論調[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』138、141、4月24、27日

次の政権に就ての所論[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』145、5月3日

外国人の日本論[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』147、5月6日
朝鮮同化政策の反省[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』149、5月8日
政局の推移と観点[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』153～155、5月13～15日
政治と教育[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』157、5月17日
田辺元博士の社会民主主義論[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』160、5月21日
共産党と社会党[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』164、5月25日
中国問題を問題とせよ[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』168、5月30日
民主主義化の困難『新興文化』2-6、6月1日
吉田内閣批判の角度[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』171、6月3日
日本の苦悩[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』179、6月12日
暴力革命から平和革命へ[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』181、6月14日
救国民主聯盟[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』185、189、190、6月19、24、25日
言論界に望む[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』194、6月29日
対外政策への反省『創建』1-7・8、7月1日
日本政治の主体と国際環境『潮流』1-7、7月1日[座談会：蠟山政道、田村幸策、平野義太郎、堀真琴]
平和の解剖学[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』198、7月4日
時流に盲目な保守陣営[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』202、7月9日
支那事変の反省[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』204、7月11日
明後日の日華両国[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』209、210、7月17、18日
言論界・政府・官僚・政党[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』212、7月20日
民主戦線其後の動き[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』213、7月22日
社共二党の分袂と前途[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』215、7月24日
賠償問題所感[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』216、7月25日
「ソヴェト勢力の型態」を読む[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』217、7月26日
国家の運命『新人』26-5、8月1日
農村問題に関し政党に一考をわずらはす[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』229、8月9日
社会主義か資本主義か[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』236、238、8月17、20日
国共妥協の能不能[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』240、8月22日
八月十五日の各紙社説[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』241、243、8月23、26日
国際的環境の問題と民主化の速度[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』246、8月29日
婦人の社会的解放『婦人文化』1、9月1日
外務省の仕事と任務[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』249、9月2日

マ元帥の声明[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』260、9月14日

農民の政治的性格と労働組合の政治的性格[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』261、264、9月16、18日

天皇制ならびに皇室の問題[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』266、9月21日

社会党評・共産党評[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』270、271、273、9月27、28日、10月1日

世界平和と二つの世界体制—堀江邑一氏の所論[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』278、10月7日

平和革命の理論と展望[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』280、10月10日

官僚論の諸相[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』285、287、10月16、19日

既成政党批判の基準[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』288、10月21日

世界機構に関する諸論[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』291、10月24日

平野義太郎氏の諸論文[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』294、10月28日

ソヴェト外交に就て[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』304、305、11月8、9日

平和革命の問題を中心として[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』311、318、11月16、26日

再び官僚論[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』320、322、11月28、30日

国民大会の論評[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』323、12月2日

新憲法公布と各紙各黨[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』326、327、12月5、6日

吉田内閣の基本政策と臨時議会[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』328、12月7日

力の発展としての平和[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』330、12月10日

日本社会党二論[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』333、12月13日

一亡命家の祖国革命観—ラデイツアのユーボスラヴィア観—[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』337、12月18日

内外情勢の一鳥瞰[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』345、12月28日

1947(昭和22)年

労働組合と政治[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』347、1月7日

国会法案と委員会制[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』348、1月8日

ゼネストと政治—「改造」の特輯の紹介—[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』351、1月11日

新憲法と議会制度—蟬山政道氏の所論—[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』355、1月16日

四六年の政治・政治論—回顧と展望[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』357、1月18日

一九四七年年頭時観—新聞に現われた政治情勢[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』360、361、1月22、23日

国際日本への発足—尾形昭二氏の所論—[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』363、1月25日

*東亜の変革—諸地域の民主体制確立への努力[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』368、1月31日

わが国における社会愛の問題『進路』2-2、2月1日

中国の国際関係と国際的地位—具島兼三郎氏の所論[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』386、2月22日

十一月七日『文芸春秋』25-2、3月1日

政治と妥協—向坂逸郎氏の所論[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』397、3月7日

国際問題に関心を[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』402、3月13日

二・一スト指導者にたいする批判と擁護[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』408、409、3月20、22日

野坂参三氏の見解[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』414、3月28日

総選挙を前にしての一提案[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』422、4月8日

各政党・共産党・新党[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』424、4月10日

総選挙をまえにする政党の政策[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』436、4月24日

新中国の動向[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』438、4月26日

外交評論—二月を紹介する[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』441、5月1日

四月選挙のあと[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』451、5月14日

総選挙の結果と組閣問題私見[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』454、5月17日

連立内閣問題と各紙社説[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』460、5月24日

共産党および産別会議[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』469、6月4日

どんな内閣をつくるべきか[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』478、479、6月14、16日

月島の思い出『旬刊ニュース』27、6月15日[『10年の歩み』(全日本造船労働組合石川島分会、1956年)収録]

経済緊急対策評[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』484、6月21日

本県の生産復興 平貞蔵氏を囲み座談会『秋田魁新報』6月27、28日[座談会：渡辺瑞美、安達寛、長沢良吉、笈川弥三郎、岡原晴雄、堀米健一、今井捷平]

日本政治の特性『創造』17-7、7月1日

内外の動きと所見[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』496、7月5日

内務省の解体と新日本建設国民運動[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』501、7月11日

経済実相報告書と政党[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』503、7月14日

政党法案その他[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』515、7月28日

雑誌の政治論文 直接、政治に関する論文が少ない[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』532、8月16日

国民の政党か階級の政党か 世界評論七月号山川均氏所論[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』543、8月29日

総合雑誌の政治論[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』549、9月1日

アジア民族運動の胎動—世界週報八月二十日号[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』556、9月13日

政治を主にあつかう新雑誌の紹介[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』558、9月16日

三つの社会党論[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』560、9月18日

八月十五日、九月二日[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』563、9月22日

「アジア的なもの」の究明[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』567、9月27日

官僚制改革の問題 迫間真治郎氏の所論の紹介[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』569、9月30日

*はぎの花こぶしの花『郷土』2-3、9月

三つの世界三つの民主主義 レスター・マーケル氏と小椋廣勝氏[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』575、10月7日

総合雑誌の役割と色調[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』578、10月10日

講和会議と日本 朝日評論九月号尾形昭二氏の所論[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』585、10月20日

社会思潮・社会主義・前進—三誌を中心としての感想[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』587、10月22日

九月の総合雑誌—その政治論を中心として[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』591、10月27日

近着の総合雑誌評と政論家への希望[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』604、11月12日

政党理論の轉換 朝日評論十月号佐々弘雄氏の所論[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』614、11月24日

社会主義革命の新方式について—向坂逸郎氏の所説[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』623、12月4日

「封建論争」「資本主義論争」[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』627、12月9日

社会党の内紛に寄す 東京新聞十二月二日の社説[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』634、12月17日

十一月の総合・政治雑誌[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』640、12月24日

一九四七年かえりみる[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』642、12月27日

1948(昭和23)年

元旦随想『旬刊ニュース』34、1月1日

一つの片山内閣批判—野坂参三氏の所論[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』643、1月6日

何をなすべきか・・・1948年『時事通信 時事解説版』643～645、1月6～8日[座談会：小沢正元、平野謙、戸板康二、戒能通孝、拓植秀臣、児島俊弘、鈴木武雄、山口正吾、中村哲、羽仁説子]

一九四八年の展望[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』659、660、663、1月24、26、29日

ガンジー翁の死[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』672、2月9日

社会党の左右対立[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』675、2月13日

片山内閣の総辞職と後継内閣問題[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』678、679、2月17、18日【その一 政治学者の見解、その二 新聞社説の論調】

最近の雑誌の政治論文を中心に[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』684、2月24日

芦田首班の指名まで—新聞社説をみる[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』687、2月27日

個人の自覚と確立をめぐる[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』691、3月3日

最近の世界の動き—新聞・雑誌の扱ったもの[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』703、3月17日

政党と最近の政治論壇[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』709、3月24日

第三勢力・地域主義・自由主義 矢野武夫、平野義太郎、大山岩夫氏の所論を紹介する[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』711、3月25日

芦田内閣への期待と新党評[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』716、4月1日

最近雑誌の政治論文—佐々弘雄氏の論文を中心に[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』728、4月16日

イタリアの総選挙の結果如何—各雑誌の世界情勢の扱い方[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』736、4月26日

最近の世界の動き雑感[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』762、5月28日

最近の雑誌の政治論文[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』766、767、6月2、3日

女性と政治教育[「時事通信 時事解説版」]773～775、6月10～日[座談会：武田キヨ、戸叶里子、近藤鶴代、岡本季正、羽仁説子、板垣守正、拓植秀臣、村田為五郎、塩塚俊三]

『民族主義』の問題[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』777、6月15日

民自党の志向するもの[「時事通信 時事解説版」]783、784、6月22、23日[討論会：星島二郎、周東英雄、戒能通孝、塩塚俊三]

政治再建計画試案の出現を望みつつ[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』789、6月29日

「米国の民主政治」を読む[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』791、7月1日

最近の総合雑誌から[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』797、7月8日

現下の世界情勢と日本外交の将来 「時論」六月号、松下正寿氏の所論[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』806、7月19日

七月の総合雑誌評[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』810、7月23日

「世界共産主義の戦略と戦術」の必読をすすめる[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』818、8月2日[『旭の友』26、1948年9月1日に転載]

新しい平和論の必要[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』822、8月6日

政治の動きと新聞・雑誌[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』828、8月13日

改造・朝日評論・光[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』839、8月26日

国民性の改造とイデオロギーの展開を読む[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』846、9月3日

リッデル・ハートとスタインベックの著書[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』849、9月7日

総合雑誌の内容と論壇の分野[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』855、9月14日
政局断語[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』859、9月18日
戦争と平和について[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』868、9月30日
アジア経済復興の条件—わが国の役割—『財政経済』2・10、10月1日
ヨーロッパと朝鮮の研究をのぞむ[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』873、10月6日
各界とくに政界の腐敗[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』880、10月14日
政治学の著書数種[「ブック・レビュー」]『時事通信 時事解説版』881、10月15日、
政界の腐敗と民主主義 蛭山政道氏の所論[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』881、10月15日
吉田内閣への期待、不期待[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』898、11月5日
9月の雑誌の政治論文[「ブック・レビュー」]『時事通信 時事解説版』899、11月6日
政治学の入門書—あわせて一つの希望[「ブック・レビュー」]『時事通信 時事解説版』900、11月8日
戦争裁判と新聞社説—あわせて一つの願いを述べる[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』905、11月13日
トルーマン大統領の再選—再選された理由についての諸説[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』909、11月18日
アメリカの外交についての断想 モーラーの『米国外交の夢魔』未読の記[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』919、12月1日
共産党における二つの偏向 野坂参三氏の論文『二つの偏向を克服せよ』の紹介[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』931、12月15日

1949(昭和24)年

1948年の政治論壇—回顧と展望[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』943、1月4日
外と内と[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』946、1月7日
一月の雑誌と元日の新聞[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』955、1月19日
総選挙の結果 民自党と共産党について—各紙の論説をみる—[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』969、2月4日
続・総選挙の結果 民主党と社会党の凋落について—各紙の論説をみる[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』979、2月15日
社会党と民自党の前途についての一考察[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』982、2月19日
組閣方針と新聞論調—単独か連立か合同か、合同への連立か[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』987、2月25日
続・組閣方針と新聞論調—単独か連立か合同か、合同への連立か[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』990、3月1日
西と東[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』996～998、3月8～10【(上)北大西洋同盟の意味するものと日本占領政策、(中)中国の動きを伝えるもの、(下)アジアの行方—著者紹介にちなんで】

中国共産党と毛沢東研究の一手引[「ブック・レビュー」]『時事通信 時事解説版』1001、3月14日

ふたたび『西と東』[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』1012、1013、3月28、29日

ソ連に関する三つの著書－抑留者の報告を読む[「ブック・レビュー」]『時事通信 時事解説版』1027、4月14日

フランスとイギリス－その思想と政治[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』1032、4月20日

『平和声明』について－平和論にもつと具体性と展望を与へよ[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』1037、4月26日

アジアの将来[「時論」]『世界週報』30-17、4月27日

政治学者に希望する 日本の政治学者は何をしているだろうか[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』1041、5月2日

河上清氏の著書『米ソ戦わば?』に寄せて[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』1050、5月14日

中国、ソ連にかんする著者 巾と深みのある中国論の出現を望みたい[「ブック・レビュー」]『時事通信 時事解説版』1055、5月20日

【「諸家は今年は何をする考えか：時事年鑑にあらわれた諸家の個人計画の展望」】『佐世保文化』2、6月1日

総合雑誌を鳥瞰する[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』1069、6月6日

蔣総統の心境－杉原荒太氏の一文[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』1072、6月9日

猪木正道氏と中村菊男氏－『思索』と『改造』から [「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』1078、6月16日

ソ連研究の著者－あわせて時局感想若干[「ブック・レビュー」]『時事通信 時事解説版』1082、6月21日

イギリス式とソ連式－土屋清氏の一小論[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』1084、6月23日

六月の総合雑誌を管見する 目立つ平和問題、ドッジ・ライン経済安定問題[「ブック・レビュー」]『時事通信 時事解説版』1088、6月28日

実業人と政治その他 経済雑誌の政治論文[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』1096、7月7日

『平和革命方式』の問題－向坂逸郎氏の立論[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』1109、7月22日

七月の総合雑誌から 外人記者のアジア観[「ブック・レビュー」]『時事通信 時事解説版』1111、7月25日

日本共産党の前途はどうなる[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』1118、8月2日

朝鮮の統一について－マイダンス氏の一論[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』1133、8月19日

アメリカの対日政策と日本の立場－中央公論八月号の四論文[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』1142、8月30日

8月と9月の総合雑誌から[「ブック・レビュー」]『時事通信 時事解説版』1147、9月5日

続8月と9月の総合雑誌から[「ブック・レビュー」]『時事通信 時事解説版』1153、9月12日

近時の問題三つ－要解者の希望を述べる[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』1158、9月17日

中国に関するものの近刊書[「ブック・レビュー」]『時事通信 時事解説版』1159、9月19日

孫文・李人傑・李大釗『世界週報』30-37、9月21日

国際情勢の回顧と展望のためにーアメリカとの関係を中心に[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』1165、1166、9月27、28日

[「日本共産党への注文(葉書回答)」]『世界評論』4-10、10月1日

国際政局断想[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』1176、10月10日

外交・対立・諜報[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』1180、10月14日

十月の総合雑誌にみる政治色[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』1188、10月24日

新中国と日本[「中華人民共和国政府の成立と世界政局への影響」]『改造』30-11、11月1日

総合雑誌の中国問題[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』1197、11月4日

対日講和をめぐつて[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』1204、1205、11月12、14日

奇妙な友情ー尾崎秀実君の回想[「隨想」]『世界週報』30-43、11月16日

アジアにおける共産主義の問題[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』1211、11月21日

アジアの性格と方向を示す動き[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』1221、12月3日

日本政治一ケ年の回顧ーあわせて論壇をかえりみるー[「特集・今年の政治・経済はどう動いたか」]『実業之日本』52-24、12月15日

インドはどうかっているか[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』1233、12月17日

“政局論”に歯ごたえなし 年末の総合雑誌に“政治”をみる[「ブック・レビュー」]『時事通信 時事解説版』1235、12月20日

1950(昭和25)年

二十世紀の分岐点『時事通信 時事解説版』1244~1246、1月5~7日[座談会：石橋湛山、田中惣五郎、三枝博音、大熊信行、高島善哉、都留重人、板垣与一、村田為五郎、塩塚俊三]

新中国のモラールー竹内好氏の新中国論[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』1244、1月5日

年頭の各紙がえがく政治情勢[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』1254、1255、1月17、19日

悲観すべき政界の錯乱ー要解者の観察[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』1263、1月27日

民自党と社会党についての感想[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』1273、2月8日

アジアの問題二つ[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』1285、2月22日

新聞の中ソ同盟観[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』1287、2月24日

平和問題について 平和問題談話会の声明を中心に[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』1294、3月4日

米・ソは対立するか[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』1311、3月25日

中国問題一管見[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』1318、4月3日

『政治評論家』論[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』1322、4月7日

総合雑誌への外人の寄稿[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』1326、4月12日

日本社会党の再統一[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』1334、4月21日

日本の課題・米ソの課題 極東政策にかんするラチモア氏の勧告[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』1337、4月25日

逝けるラスキ教授 悼む三政治学者の言葉[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』1350、5月13日

書評の困難な時代 清水氏の「愛国心」を中心に[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』1356、5月20日

公共事業の研究にのぞむ 二、三の紹介をかねて[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』1363、5月29日

政治の表情と背骨と[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』1371、6月7日

五、六月の総合雑誌を概観する[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』1373、6月9日

『戦後日本の移り変わり』 いわゆる外交白書を読む[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』1376、6月13日

朝鮮問題の行方[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』1396、7月6日

外交関係の三著書 『大戦の解剖』『スターリンの微笑』と『ソ連外交30年』[「書評」]『時事通信 時事解説版』1401、7月12日

経済白書と各紙の批評—とくに読売の論説をみる[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』1402、7月13日

国警予備隊と武装解除[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』1403、7月14日

国民性の研究を高めるもの 和辻哲郎著『鎖国—日本の悲劇—』[「書評」]『時事通信 時事解説版』1407、7月19日

七月の総合雑誌と二大事件[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』1414、7月27日

ラチモア教授の所論と朝鮮問題[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』1419、8月2日

日本の地位についての所見を訂正する[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』1431、8月16日

内外情勢の推移 私観—占領管理・独立・軍備[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』1436、1437、8月22、23日

『外交白書』を批判する[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』1448、9月5日

日本の地位と防衛をめぐる問題[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』1450、1451、9月7、8日

社会党の立場にかんする三つの論文[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』1472、10月4日

北鮮軍はなぜ強かったか 佐野学、大野謙一両氏の所説[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』1474、10月6日

ネール首相の立場[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』1477、10月10日

ヤルタ会談に秘密があるか 片岡貢司氏の一論によせて[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』1483、10月17日

追放解除と三大紙の社説[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』1485、10月19日

中共軍介入問題をめぐって[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』1505、11月13日

中国人部隊はなぜ北鮮に侵入したか[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』1512、11月21日

失われている政治一朝日新聞の社説[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』1507、11月25日
臨時国会と吉田首相—政界多事の兆し[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』1521、12月2日
米ソ関係とアメリカのアジア政策[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』1525、12月7日
西欧の立場から冷静にソ連と西欧の関係を説く カー教授の『西欧を衝くソ連』[「書評」]『時事通信 時事解説版』1530、12月13日
中共軍の南進と国内政治の動き[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』1531、12月14日
朝鮮動乱と米英会談 くつがえされた予測と将来[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』1533、12月16日

1951(昭和26)年

日本の戦略的価値[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』1544、1月4日
向ソ—辺倒政策[「米・英・ソ・中共の世界政策 中共」]『東洋経済新報』2454、1月6日
年初の課題と三大紙の論調[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』1551、1月12日
冴えない改造、日本評論“まずまず”は中央公論だけ[「正月号の政治部門」]『時事通信 時事解説版』1552、1月13日
講和問題と軍備問題[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』1559、1月23日
*中国研究所編『現代中国辞典』[「書評」]『時事通信 時事解説版』1560、1月24日
アメリカとアジアの動きを説く三つの書 [「書評」]『時事通信 時事解説版』1564、1月29日
自衛、再軍備論議と新聞論調[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』1564、1月29日
軍事地理学的見地から論及 高木惣吉氏の新著「日本の運命」[「書評」]『時事通信 時事解説版』1567、2月1日
一般に問題を見失っている 読みごたえある中公と世界 [「2月の政治」]『時事通信 時事解説版』1572、2月7日
朝鮮動乱の現状をどうみるか[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』1573、2月8日
芦田均氏の祖国防衛論[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』1589、2月27日
スターリン声明の意味[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』1595、3月6日
対照的な二つの著書[「書評」]『時事通信 時事解説版』1596、3月7日
三大新聞の地方選挙論[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』1598、3月9日
磯村英一氏の地方選挙論[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』1599、3月10日
平和論が横行しすぎている 編集技術の面で得した“中公”[「3月号の政治」]『時事通信 時事解説版』1602、3月14日
東洋経済の海外情勢観[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』1603、3月15日
平和論議と厭戦思想[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』1615、3月30日
天皇と天皇制との関連性を解剖 田中惣五郎著『天皇の研究』[「書評」]『時事通信 時事解説版』1618、4月3日

講和の行方と日本経済の立場—特にアジア経済との関連において—[「論説 今日の問題と明日の問題を理解のために」]『エコノミスト』増刊、4月5日

ダレス特使の演説と新聞論調[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』1621、4月6日

問題の所在を見失った形 陽春“特大号”に気をとられて[「雑誌評 4月号の政治」]『時事通信 時事解説版』1623、4月9日

マ元帥解任と各紙の社説[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』1631、4月18日

一般的に手が省かれている 軌道に拭くし復した”改造”の編集[「雑誌評 5月号の政治」]『時事通信 時事解説版』1636、4月24日

海外研究機関の充実 要解者の望みたいこと[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』1638、4月26日

*鎌田澤一郎著『松籟清談』文芸春秋新社、1951[「書評」]『時事通信 時事解説版』1645、5月7日

地方選挙の結果をみる 各紙の指摘点と所感[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』1648、5月10日

四つの重大意義 憲法記念日にちなむ各紙の社説と要解者の所感[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』1651、5月14日

2つの50年史 公・私人としてのまる50年間の回顧録 幣原氏の遺稿『外交五十年』異色ある政治史入交好脩著『政治五十年』[「書評」]『時事通信 時事解説版』1652、5月15日

詳細な戦後のハンガリー事情 F・ナジーの『鉄のカーテン背後の死闘』[「書評」]『時事通信 時事解説版』1659、5月23日

総合雑誌の典型『中央公論』新聞社刊行の強味をみせた『毎日情報』[「雑誌評 6月号の政治」]『時事通信 時事解説版』1661、5月25日

朝鮮動乱の現段階 雑誌はどう扱ったか[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』1662、5月26日

淡々・外交官業の日常生活 武者小路公共氏の『滞欧八千一夜』と『道草十万里』[「書評」]『時事通信 時事解説版』1664、5月29日

アジアと世界『郵政』3-6、6月1日

対日講和にかんするソ連の提案とアメリカの拒否[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』1668、1669、6月2、4日

ジョン・ガンサーの『マッカーサーの謎』日本人の“知りたい問題”に解答 見事な筆致、解任以前に説く解任[「書評」]『時事通信 時事解説版』1671、6月6日

民主党の内紛 各紙の論評と要解者の所感[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』1674、6月9日

七人委員会[「社会時評」]『エコノミスト』29-17、6月11日

信用するに足る敗戦の記録 淵田、奥宮両氏の『ミッドウエー』[「書評」]『時事通信 時事解説版』1675、6月11日

社会党に反省を促す 新聞社説にあらわれたもの[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』1682、6月19日

一般に焦点がぼやけている 他を引き離す『中央公論』と『世界』[「雑誌評 7月号の政治部門」]『時事通信 時事解説版』1683、6月20日

追放解除と新聞論調 併せて要解者の見解[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』1965、6月22日

憲法改正と講和『日本及日本人』2-7、7月1日

朝鮮動乱の一周年[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』1696、1697、7月5、6日【(上)新聞をどう扱ったか、(下)要解者の所感】

労働組合と講和問題『官業労働』5-7、7月15日

評判の悪い内閣改造 各紙挙つて不満を表明[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』1705、7月16日

半カ月の新聞論調 朝鮮和平と他の問題をどう関連させたか[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』1712、1713、7月24、25日

やはり世界と中央公論 各誌に感じた物足りなさ[「雑誌評 8月号の政治部門」]『時事通信 時事解説版』1718、7月30日

イラン問題理解の手ほどきとなるもの[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』1724、8月7日

新聞社説は何を問題としているか 併せて要解者の希望[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』1728、8月11日

表裏から衝いた近衛時代史 適任者風見章氏の『近衛内閣』[「書評」]『時事通信 時事解説版』1730、8月14日

行政機構改革と行政整理 最近の新聞論調をまとめる[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』1733、1734、8月17、18日

依然他を抜く“中公”と“世界” 小型でまとまっている“展望”[「雑誌評 9月号の政治部門」]『時事通信 時事解説版』1737、8月22日

単作地帯と産業開発—山形県に即しての随想—『国土』1-5、8月31日

愛国心とその教育『教育技術』6-7<臨時増刊>、9月5日

選挙区問題論議の角度[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』1752、1753、9月8、10日【(上)朝日、日経、時事は小選挙区制度の採用を説く、(下)小選挙区制採用に対する毎日読売の論調と要解者の疑問】

行政機構改革と行政整理 注目すべき大来氏の所論[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』1759、9月17日

講和会議に関連してのアジア問題論調[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』1763、9月21日

意外に成功した毎日情報 熱心のあまり片よった『世界』[「雑誌評 10月号の政治部門」]『時事通信 時事解説版』1764、9月22日

行革論にたいする疑問[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』1773、10月4日

社説は何を取上げたか[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』1778、1779、10月10、11日【(上)八月中旬から九月中旬までの新聞を概観する、(下)九月中旬以降、新聞が問題とした主なもの】

ありのままに書かれた激動の六年 臭味のない森正蔵氏の『戦後風雲録』[「書評」]『時事通信 時事解説版』1780、10月12日

和戦のカギはあるか 日経「週間国際情勢」の諸論に関連する要解者の見解[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』1784、10月17日

親しみ易く内容もよい改造 中公(臨時増刊)は成功した[「雑誌評 10月号の政治部門その後」]『時事通信 時事解説版』1785、10月18日

依然手固い「世界」の編集 中公と文春は手をぬいた感がある[「雑誌評 11月号の政治部門」]『時事通信 時事解説版』1792、10月26日

エジプト問題の登場 各紙社説からみた問題への影響と要解者の私見[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』1795、10月30日

序『アジア経済調査月報』11月

社会党の分裂をどう観たか[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』1803、1804、11月9、10日【(上)中央各紙の論調、(下)朝日、毎日の社説と要解者の所感】

民主主義の逆転と成長 読売の社説と要解者の所感[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』1814、11月22日

主事統制撤廃中止後の新聞論調[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』1815、11月24日【(上)政治的責任の追及】

自己本位の錯覚 京大事件についての感想『時事通信 時事解説版』1817、11月27日

行政機構改革と行政整理『官業労働』5-12、12月1日

社会主義インターナショナルと鈴木茂三郎氏[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』1821、12月1日

“日本はアジアの孤児”か[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』1826、1827、12月7、8日【(上)問題の発展のためにキッカケをつくる、(下)対日感情に耳を傾けよ】

“米ソ戦は避けられる” 断定した東洋経済新報の座談会[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』1837、12月20日

1952(昭和27)年

アジア開発の国際的計画[「アジアにおけるナショナリズムとコミュニズムと日本の立場」]『中央公論』67-1、1月1日

五二年の国際政局展望 年頭の三大新聞に見る[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』1854、1月14日

今年の国内政局展望 年初の新聞、読売と朝日に努力のあと[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』1855、1月15日

援護対策への批判 中央五紙の舎論から[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』1865、1月28日

[「『再武装』に関する意見・批判・希望」]『世界』77、5月1日

公明選挙の提唱 三大紙の協力は何を語るか[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』1965、5月28日

アジアの経済外交について『エコノミスト』30-17、6月11日

韓国内紛を憂う 時事新報社説の紹介に寄せて[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』1980、6月14日

日印平和条約の調印 新聞社説はどこに重点をおいたか[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』1985、6月20日

三年目に入った朝鮮動乱 休戦会談に対する各紙の見通し[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』1994、1952. 7月1日

文春のほか向左一辺倒の編集 豊富だが企画に失敗した中公[「7月号の政治部門」]『時事通信 時事解説版』1995、7月2日

国内朝鮮人問題の論評 終戦いらいの回顧と雑誌の扱い方[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』1999、2000、7月7、8日

運用に監視の目を 破防法の成立と新聞論調[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』2003、7月11日

日本に革命は起るか 石橋湛山氏の三つの論文[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』2013、7月23日

戦艦武蔵 赤裸々に書かれた艦内上下の摩擦 元下士官の手になる海軍戦記[「書評」]『時事通信 時事解説版』2021、8月1日

米大統領候補指名と中近東問題[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』2024、2025、8月5、6日

*右派社会党大会のあと[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』2050、9月4日

四百五十通に余る戦没者の声 白鷗遺族会編『雲ながるる果てに』[「書評」]『時事通信 時事解説版』2060、9月16日

時事新報の自衛問題観 軍事評論家・伊藤正徳社長のもと一貫した積極方針を展開[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』2062、9月18日

総選挙の結果評 大同小異、中央五紙の筆陣[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』2080、10月10日

共産党と総選挙の結果 大新聞の考察が足りない[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』2088、10月20日

イラン問題はなぜ注目に値するか[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』2092、10月24日

イランの対英断交評 各紙とも交渉の途がとざされたとは見ていない[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』2093、10月25日

群を抜く『再軍備』特集中央公論・11月号の出来ばえ [「雑誌評」]『時事通信 時事解説版』2095、10月28日

豊かな展望力で書かれた見聞記 J・ミツチェナー著『アジアの声』[「書評」]『時事通信 時事解説版』2096、10月29日

中村哲監修『現代政治の基礎知識』はじめて学ぶものの参考、手引書 だが、広く満足させるには困難な内容[「書評」]『時事通信 時事解説版』2099、11月1日

新内閣はどう迎えられ、何を期待されるか[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』2102、2103、11月6、7日【(上)不満の筆陣、中央紙の論調、(下)毎日、政局安定策をまず考えよと説く】

巧みな筆致で描かれた評伝 二つの新刊『アイゼンハワー』[「書評」]『時事通信 時事解説版』2105、11月10日

アイゼンハワーの勝利と新聞の態度 米英間の差異を知る必要がある[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』2107、11月12日

二つの『大本営発表』[「書評」]『時事通信 時事解説版』2111、11月17日

アイクの勝利と日本 その後の新聞論調から[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』2115、11月21日

吉田・岡崎外交への不安[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』2119、2120、11月26、27日【(上)毎日社説、追従外交を非難、(下)要解者の見解】

力作・『中公』の“ソ連の新路線” 『世界』と併読することをすすめたい[「雑誌評 11月号の政治部門」]

『時事通信 時事解説版』2121、11月28日

試煉に立つ第四次吉田内閣『中央公論』67-14、12月1日[座談会：中村正吾、吉田徳次郎、御手洗辰雄]

新政策と新聞の論調 独立内閣の名にふさわしい日本の針路を明示せよ[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』2126、12月4日

陶晶孫著「日本への遺書」日本への親しみと苦言 一中国自然科学者の作品集[「書評」]『時事通信 時事解説版』2131、12月10日

社会運動の動向—本年度の労働運動私観—『官公労働』6-12、12月15日

朝鮮動乱解決をめぐる新聞論調の推移[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』2139～2141、12月20～22日【(上)きっかけになったインド提案、(中)副題はない、(下)アイゼンハワー元帥の訪鮮】

1953(昭和28)年

1953年の動向と展望 政治は？経済は？労働は？『事務と経営』5-40、1月1日

信用失う議会政治 各政党は新聞の非難に耳をかたむけよ[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』2150、1月7日

アジア・アラブと日本 民族運動の激化に留意せよ[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』2152、1月9日

年頭の朝日新聞 予想される国際的大問題を残りなく扱っている[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』2156、1月14日

年頭の毎日新聞 “平和”より“自由”を強調[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』2157、1月16日

年頭の読売と経済雑誌 読売は再軍備必至の年と見る[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』2158、1月17日

一月以後の国際問題[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』2186、2187、2月19、20日[(上)新聞社説が扱わなかった問題、(下)新聞の社説で扱われた問題]

中国への初旅『蒼林』4-2、2月25日

社説にみる国際政治の動向[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』2195、2196、3月2、3日【(上)政党を対象として、(下)国会を中心に、併せて私見】

米ソ対立の現状[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』2201、2202、3月9、10日【(上)各紙国連総会に期待せず、(下)世界の動きにあらわれたもの】

スターリン首相の危篤から死後まで[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』2208～2210、3月17～19日【(上)危篤の公表と新聞論調、(中)死去を扱った新聞社説、(下)後継者決定以後の論調】

あきたのはなし『蒼林』4-3、3月25日

日本政治の現状 本質から遠ざかった政争に明け暮れているのは遺憾[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』2231、4月14日

最近の国際情勢[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』2239、2240、4月23、24日【(上)平和攻勢に混乱した西欧陣営—要解者のメモ、(下)平和攻勢をめぐる各紙の論調】

近ごろの総合雑誌—雑感[「雑誌評 5月号の政治部門」]『時事通信 時事解説版』2244、4月30日<<無署名>>

総選挙狙った全面特集世界 改造三つの特集、頂けるのは一つ[「雑誌評 5月号の政治部門」]『時事通信 時事解説版』2244、4月30日

尼さんのはなし『蒼林』4-4、4月25日[『平貞蔵の生涯』収録]

インドシナ問題の視角 ソ連を非難する『時事』と西欧に警告を発する『中部経済』[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』2260、5月20日

庄内の海岸でーとりとめもないはなしー『蒼林』4-5、6月25日

再び庄内の海岸でー故郷のはなしー『蒼林』4-7、8月21日

再び庄内の海岸でー故郷のはなしー『蒼林』4-8、9月21日

山形県の総合開発について『資源』<経済安定本部資源委員会>14、11月30日

1954(昭和29)年

一つの回顧談ー昔書いた随筆「北条時宗時代」によせて『蒼林』5-1、1月1日

奇妙な友情ー十一月七日ー『蒼林』5-2、2月1日

春二題『蒼林』5-4、4月23日

当面する諸問題 世界経済ーことに世界農業の圧力ー[第2次山形県総合開発基本計画答申書第一部総論より抜粋]『農業山形』5-7、7月5日

国有林野の解放ー山形県の場合ー『資源』22、10月5日

*二三男問題『民主社会主義』[19]、1954年11月1日

*混迷する政局を打開する『民主社会主義』[19]、1954年11月1日[座談会]

人亦苦『山形教育』50、11月15日[対談：武田鷹芳。『歩める道はー来し方はー』(武田鷹芳編・刊、1956年3月30日)収録]

1955(昭和30)年

国土総合開発はこれでよいか?『国土開発』4-1、2、1月1日、2月1日[対談：稲葉秀三]

川柳・俳句・民謡との因縁『蒼林』6-5、5月30日[『平貞蔵の生涯』収録]

春の花『政界往来』21-6、6月10日

近時雑感『蒼林』6-6、7月15日

北海道で二題『蒼林』6-7、8月15日

四国をめぐる『蒼林』6-8、9、9月15日、10月10日

北海道における地域総合開発についてー地域開発懇談会での談ー『総合開発』23、10月

消え去った夢一つ 漢詩に憧れての旅日記『政界往来』21-11、11月10日

筑後川『蒼林』6-11、11月30日

1956(昭和 31)年

詠士宮島大八先生『蒼林』7-1、2、1月1日、2月28日[後藤嘉一編『宮島詠士先生遺墨選』(宮島大八遺墨展実行委員会、1957年)、『米沢文化』3(1968年8月)、『平貞蔵の生涯』収録]

赤松君の思想[「特輯赤松克麿の生涯」]『日本及日本人』7-3、3月1日

「山形」の著者へ『潮夕』12-3、3月1日

二月の随想四題『蒼林』7-3、3月31日

利根川『昭和同人』2-4、4月10日

林と水『蒼林』7-5、5月31日

歴史をもっと知りたい『昭和同人』2-1、12月10日

1957(昭和 32)年

国土開発の当面する問題の中から『国土開発』6-1、1月1日

イスラエルとイギリス[「中東問題随想」]『資源』49、1月5日

林業遠近『蒼林』8-1、1月1日

新年無題随想『昭和同人』3-1、1月10日

*台湾問題を巡って『民主社会主義』52、8月1日

広域行政雑感『地方自治』118、10月5日

*社会思想社と三輪『民主社会主義』5-10・11、11月1日

1958(昭和 33)年

随想 稲作と林業『蒼林』9-1、1月1日

調査旅行の思い出[「随想」]『資源』61、1月5日

経過十年の思い出から『蒼林』9-4、4月26日

1959(昭和 34)年

正義感に満ちた主張 K・W・カップ著篠原泰三訳「私的企業と社会的費用—現代資本主義における郊外の問題」『朝日ジャーナル』1-27、9月13日

1960(昭和 35)年

これからの10年—日本は明るくなる—『資源』84、1月5日[座談会：亀山直人、松井春生、巽良知、志賀富士男、渡辺扶、安芸皎一、黒沢俊一]

東北—農村の今昔[「随想」]『国土』10-2、9月1日

昭和塾回想『昭和同人』6-11、11月10日

昭和研究会の歴史的役割『昭和同人』6-11、7-2、4、11月10日、**1961年**2月10日、4月10日[座談会：蟬山政道、酒井三郎、後藤隆之助、笠信太郎]

1961(昭和 36)年

*理解しがたい主張『昭和同人』7-6、6月10日

*沖縄を訪ねて『昭和同人』7-7、7月10日

1962(昭和 37)年

統計を離れた討論 アジアの進歩と停滞『沖縄公論』15、12月1日[討論会：土井章(司会)、秋岡家栄、栗本弘、斎藤一夫]

1963(昭和 38)年

農業路線について[「随想」]『国土』12-4、3月1日

1966(昭和 41)年

開発と人[インタビュー]『開発金融』3、6月

豪州の資源開発と日本の農業－豪州資源開発視察を了えて－『都道府県展望』94、7月1日

3. 評論集初出一覧

『事変処理の理念』東洋書館、1940年12月1日

第1編 新体制と外交	
1. 支那事変処理と日独伊枢軸	
2. 欧州戦争と日本	1939年11月
3. 東亜共栄圏の諸問題	『エコノミスト』18-34、1940年9月16日
4. 歴史の教訓を如何に生かすべきか	
第2編 支那事変処理の理論と実践	
1 事変処理と新東亜への翹望	『改造』21-7、1939年7月1日
2 事変処理の現段階	『大陸』3-10、1940年10月1日
3 我国大陸政策の推移	『公論』3-5、1940年5月1日
4 我国大陸政策と東亜新秩序	大陸政策と東亜新秩序抄論『理想』105、1940年2月1日
5 新秩序下の日支関係 1 政治的連携	新秩序下の日支関係「新体制下の東亜」『改造』21-1、1939年1月1日
2 経済的連携	日支経済提携について『日本評論』15-5、1940年5月1日
6 支那に於ける租界と列強	支那に於ける租界と列強の活動『改造』21-4、1939年4月1日
7 事変処理と支那中央政權の課題	事変処理と支那新中央政權『公論』3-2、1940年2月1日
8 東亜新秩序の理念	1940年1月
9 我が対外政策と支那民族主義の把握	対外政策・支那民族主義把握・国内革新『大陸』3-2、1940年2月1日
第3編 大陸縦横談	
1 満州と支那	支那と満州『知性』2-3、1939年3月1日
2 支那南北記	『改造』17-11、1935年11月1日

『共栄圏の北と南』三友社、1941年6月30日

北進と南進一序論に代へて一	
北方への視角	
1 大陸政策の基本的課題	大陸政策の基本課題小論『東亜問題』2-1、1940年4月1日
2 満州の政治と協和会	
3 満州に於ける新興運動	『大陸』4-1、1941年1月1日
4 馬賊と匪賊	満州馬賊と匪賊『東亜』6-7、1933年7月1日
中国への視角	
1 支那に於ける民族運動	支那に於ける民族主義運動『東亜解放』2-2、1940年2月1日
2 国府発展と憲政問題	
3 六年前の北支	紛争の渦中より『中央公論』50-7、1935年7月1日
4 ヨーロッパ新秩序と東亜新秩序	ヨーロッパ協同体と東亜協同体—東亜協同体への一つの反省—『日本評論』15-8、1940年8月1日
南方への視角	
1 南進論と世界政局	我が南進論と世界政治の現勢『中央公論』56-3、1941年3月1日
2 南進の世界的意義—南進論と世界政局再論—	『中央公論』56-4、1941年4月1日
3 南方に於ける民族問題	民族政策と南方問題『新亜細亞』2-9、1940年9月1日
4 台湾の印象	台湾所見『大陸』4-3、1941年3月1日
付録	
1. 北条時宗時代	『改造』23-7、1941年4月1日
2. 孫文及び支那青年知識階級(一)~(六)	
(七)~(一〇)	支那青年知識階級論『ラヂオ講演講座』72、1939年5月15日